

活動の流れ	対 象	○ 指導助言と留意点 * 仮説との関連
1、問題の発見	学級全員	○ 問題は生活のまわりにあることに気づくことができるようにする。 * 「何したい・困ったという自分とのかかりを見つけ議題ポストに入れる。(「話し合い活動の進め方」の手引きを利用する。)
2、議題の選定	計画委員	○ 問題を整理させる時、自治的な問題かどうか議題選定のなかで助言して選ぶようにする。 * 「話し合いの活動の進め方」の手引きをもとにして、集団として共同で解決する問題を選ぶ。 * 取り上げられなかった問題に対する処理を大事にし、問題を出してくれた人にどのように解決するようになったのか返事を出す。 ○ 計画委員は輪番制とし、できるだけ多くの児童に経験させるようにする。
3、議題の決定	学級全員	○ 日常生活に密着したものを選ばせるよう助言していく。 ○ 早急な議題案かどうか見直しを立てて決定させる。 * 議題がみんなにとって共同のものとする。
4、活動計画の立案と予告	計画委員	○ 計画委員会での指導助言は大切に、実態に応じた指導をする。 ○ 話し合う事項(柱)や時間などについて相談させる時、実施の段階での見直しを立てて活動計画の作成ができるようにする。(これまでも実施した話し合いの柱を参考にさせる) ○ 提案理由の中に話し合いのめあて・方向性が含まれているように修正させ、集団として共同で解決すべき問題が話し合われるように助言していく。 * 「計画委員会の進め方」を参考に、活動計画を立てる * 意見が出にくい時や時間がかかると思われる時には原案を提示する。
5、事前の準備	学級全員	○ 提案理由から柱について考え、理由も述べられるように「学級会ノート」に自分の考えをまとめられるようにする。 * 自分だけでは考えられない場合には、友達と相談し、それから自分の意見をまとめる。
	計画委員	○ 学級会ノートから予想される発言内容についての対応の仕方について助言しておく。 (原案作成・資料の収集・話し合いの方向等) * 自分の役割の仕事の内容がわかり、練習の場を持つ。(「話し合い活動の進め方」を利用する。)

## ② 検証授業 (事例1)

- 議題 空きかんの笛で、演奏会を開く相談をしよう。
- 議題選定までの経過  
本議題は、夏休みの友に載っていた図画工作の宿題で作ってきた作品を展示しておいたのを見て、せっかくながら苦勞して作ってきたのだから演奏会を開いて楽しんでみてはどうかと、議題ポストに提案されたものである。そこで、全員に図つたところ議題として取り上げることによって決定したものである。
- 本時のねらい  
○ 各自が自分の意見を持って話し合いに参加できるようにする。  
○ 空きかんの笛を使って みんなで楽しく演奏会ができるように相談することができるようにする。
- 活動計画

第2学期 第3回 学級会の計画 9月20日(金) 第5校時

話し合いの順序	時間	気をつけること	仮説との関連
1、始めの言葉	5分		
2、学級の歌			
3、議題の確かめ			
4、提案理由の説明			
5、話し合い	35分		
① どんなグループにするか。	(15)	・原案を提示する	○全員に対して・友達の意見を聞いて「学級会ノート」に書いてある考えを練り合わせて発表する。 ・学級の一員としての意識を持って話し合いに参加する。 ○役割分担者に対して・効率的な話し合いができるために、自分の役割は、責任を持ち、会を進めるようにする。
② どういう賞を作るか	(10)	・いくつ決めてもよい	
③ どんな係が必要か。	(10)		
④ その他			
6、決まったことの発表	5分		
7、先生の話			
8、終わりの言葉			

- 指導上の留意事項  
○ 話し合いの①「どんなグループにするか。」については、本時の前にいろいろなグループの形についてグループ構成の経験させておくようにする。計画委員は、その後グループの形についてあらかじめ希望を取って、いくつかに絞って原案を提示しておくようにする。  
○ 話し合いの②「どういう賞を作るか。」については、児童のアイデアにとんだものを考えさせるようにし、励まし認める賞を考えさせるようにする。  
○ 話し合いの③「どんな係が必要か。」については、1学期実施した集会活動の係を参考に考えさせるようにする。

## (2) 検証授業と考察

### ① 検証の観点

ア. 議題が自分たちの自治的範囲のもので、一人一人にとって「自分たちの問題」で

あるかどうか。

イ. 計画委員会では、役割分担や話し合う内容と順序を決め、話し合いが円滑に進められるような活動計画が立てられたか。

ウ. 活動計画公示後、児童一人一人が、学級会ノートに議題について考えをまとめ深めているか。

エ. 話し合いのルールを守って進め、全員が協力して具体的に解決の方法を見い出そうとしているか。

### ② 事前指導の段階における指導助言の実際と考察

「話し合い活動の進め方」の手引きを実態に合わせて作成し、それを児童に配布し、手がかりとした。

ア. **問題の発見** …… 自分の問題・係の問題・班の問題・学級全体の問題など気付いたら、議題カード、学級日誌、生活日記などで提案させるようにした。その結果以前よりも問題発見の眼が育ってきた。

イ. **議題の選定と決定** …… 自治的活動の範囲のものを選ぶ力がつき自分たちの問題としてとらえ、話し合いに自発的、自主的に臨もうとする態度が育ってきた。

ウ. **活動計画の作成と予告** …… 実践活動をするうえで、何を決めておけば自分たちの手で円滑に運営することができるのかを想定して話し合う項目を決めさせ、時間内に話し合いが終了するように計画を作成させた結果、能率的な話し合いや円滑な実践活動ができるようになってきた。